

# 施設と露地を組み合わせた 効率的な鉢花生産をめざして

平野 修 司

## 経営について

私は、愛知県海部郡飛鳥村で鉢花生産をしています。飛鳥村は名古屋市の西に隣接する場所にあり、愛知県で数少ない「村」で、人口はおよそ4500人です。村の地形は全体が平坦で海拔平均がマイナス1.5m。海面より低い場所が多く、北部は水田作や野菜作が多く行なわれ、南部は工場や港湾施設が充実した臨海地帯が広がる二面性を持った地域です。また都市に近いことから、高速道路や国道があり、交通の便がとても良いところです。

生産施設の概要ですが、施設面積は温室が6棟あり約5000㎡、ビニルハウス1棟で約250㎡、露地が3600㎡です。労働人数は、事業主である父を中心に母、私、妻、祖父と家族5人、パート従業員を常時5人の合わせて10人で取り組んでいます(写真①)。生産品目は、春にはミニバラ、夏から秋にかけてはレウコフィルム、秋から冬にかけてエレモフィラとポインセチアで、この4品目を主体に生産しています。鉢サイズはバラが4、5、6号鉢、レウコフィルムとエレモフィラが3.5号ポツ

ト、ポインセチアが3号鉢で出荷。出荷先はおもに市場で、関東地方で4社、東海地方で4社、関西地方で3社とそれぞれ約20%、40%、40%の荷物量の内訳となっています。

わが家では、祖父が切花生産をしていましたが、昭和40年あたりから海部郡で鉢花生産が盛んになってきたこともあり、父が鉢花に切り替え、おもにポットマムの生産をしていました。当初約1200㎡の温室から始



写真② 外観風景



写真① 家族と従業員のみなさんで



写真③ 施設内のエプ&フロア給水装置 ミニバラ生育中

まり、バブル経済もあって規模を拡大してゆき、平成3年には3800㎡、平成12年には5000㎡と今の施設面積となりました(写真②)。平成13年頃には、施設内全体にエブ&フロー給水装置(写真③)を導入し、また平成18年には露地の3分の1にもエブ&フロー給水装置を設置しました。

## 自己紹介

高校卒業間近にこの園芸業界に進む決心がついた私は、園芸別科花組にお世話になることになり、2年間園芸についての勉強をさせていただきました。学生当初はただただ学生生活を楽しむだけの毎日で、授業でも実習でも言われたことをやっている感じでしたが、しだいに1000属検定に取り組んだり、自分が栽培してみたい植物を決めてその植物を実際に育て、さらに実験、考察をしたり。よりいっそう植物に携わるようになると、将来の自分のために今何をやらなくてはならないことなのかははっきりと見えてきたことを思い出します。1000属検定では、いろいろな植物の名前や特徴を知る良い機会となり、植物の栽培ではまったく思い通りにいかず、どうすると植物の生長をコントロールし、丈夫で花がよりきれいな鉢花が栽培できるのかを勉強させてもらいました。

また勉強だけでなく、同じ道へ進もうとしている全国の仲間たちとの出会いによって数多くのかげがえのない時間を過ごすこともできました。

花組に在籍した2年間はとても充実した時間を過ごしていたと思います。この2年間の勉強こそ、今の自分の礎になったといっても過言ではありません。そして仲間たちとも今でも連絡をとりあい、年に一度は集まり、いろいろな情報交換をしています。

## 私が就農してから

就農当時、鉢花単価が急落傾向にあり、数量を多くすることで、売上金額の落ち込みを補っているのが現状でした。私が市場との取引を父から任されるようになり、自分で作った鉢花が思ったように値段がつかず、正直いって、初めはびっくりしたことを覚えています。なぜ売れないのか、どうやったら高く売れるのか。未だに答えを模索する毎日なのですが、この頃からいろいろと考えられるようになりました。そして、まず我が家のローテーションの把握をし、どんなことが特徴で、その特徴をどう生かして生産すれば良いかを常に考えるようにしました。

我が家の生産品目の1つであるミニバラは、エブ&

フロー給水装置によりかん水時間や労働の省力化から小鉢化し、3号ポットで出荷していました。3号ポットに挿し木をしてそのまま花を咲かせて出荷するというサイクルで、約3ヶ月での出荷でした。しかし、3号ポットの出荷では需要と供給のバランスが崩れていて、年々単価が安くなり売れ行きが悪くなりました。そこで、バラの特徴でもある休眠能力を利用して夏から冬にかけて露地で栽培し、鉢上げをして鉢サイズを大きくしました。また、開花日から逆算して施設内に入室することで、新鮮でボリュームに富んだミニバラの栽培方法に切り替えていきました。また開花時期も、3月や5月のイベントに合わせることで、注文数も増え、結果として価格も安定しました。

このことがきっかけで、我が家では「露地生産」に着目するようになりました。幸い、当初より複数所有していた土地があり、現存の施設を核とし、その周辺の土地との交換をしてもらったりしながら1箇所に集め、露地の拡大を図りました。このことで、ミニバラは生産数も増え、今では約5万鉢に生産数を伸ばしています。

また、露地面積の拡大により、いろいろな植物を生育初期以降露地で栽培し、直接露地から出荷ができるかどうかを試作するようになりました。初めにも書いたエレモフィラやレウコフィルムなどの植物は、夏場の施設内では温度や湿度が高すぎて徒長して倒れたり、根腐れを起こしたりと、うまく栽培することが出来ませんでした。ところが、露地で管理することで徒長することもなくなり、丈夫なしっかりした株を生産することができ、また露地にエブ&フロー給水装置を設置すること(写真④)によって、かん水の省力化も図るとともに、過湿から起こりやすい立ち枯れや根腐れが少なくなり、生産ロスの軽減にもつながりました。



写真④ 露地のエブ&フロー給水装置 エレモフィラ生育中



写真⑤ スプリンクラー装置 ミニバラに散水中

施設だけでなく、露地を使って時間を掛けてでも高品質な鉢花の栽培を心がけた結果、施設の有効活用も出来るようになっただけでなく、他の生産者との差別化ができるようになり、市場や消費者からも高い評価を得られるようになりました。

これらの植物を露地生産から出荷まで行なうことにより、施設内ではポインセチアの占有率を高めることができました。しかし、良いことばかりではなく、露地の半数以上の面積をホースで手動かん水をしなくてはならず、夏場の暑い時期にミニバラで露地を占めてしまう時期は、雨が降るとき以外は毎日かん水作業時間となり、施設内で栽培しているポインセチアを管理する時間と重なってしまい労働時間がかなり増えてしまいました。そのため、ポインセチアの生育中に見落としがどうしても起きてしまい、ロスにもつながってしまいました。

施設と露地の有効活用を目標として、どちらかが生産ロスをしては意味がありません。そこで、より良いポインセチアを生産するために、今年よりスプリンクラーの設置(写真⑤)を試みて、さらなるかん水の省力化を図りました。このことにより、現在は施設内の作業を中心とし効率も上がっています。

## 今後は

これまで、我が家の施設と露地の活用方法を書かせていただきましたが、現存の施設や露地を最大限に生かすために施設や機械などの充実を図り、手間をかけるところはかけ、省くことができるところは省いて生産をしてきました。今後はもっと時間の余裕をつくり、他の生産地の視察をする時間を作って、いろいろな植物に触れて見たいと思っています。そして、より多くの植物の性質や特徴をつかみ、新しい植物を生産品目

に取り入れられるよう勉強したいと思っています。先ほどにも書いたように、現在は4品目を中心に生産出荷をしています。品目数が少ないとコスト面の負担が少なく、より高品質な鉢花が生産可能だとは思いますが、これ以上1品目における生産数を増量しても需要と供給のバランスを崩すことにつながると思います。そして1品目が急に売れなくなった場合、1品目にかかるウェイトが大きく、大幅に売上がダウンする可能性も予想されます。そのため、今後は生産品目をもう2～3品目増やして生産に組み入れていきたいと思っています。

また、生産性の向上はもちろん、経営面においてもさらなる向上を目指さなければならないと思っています。5年ほど前からパソコンを使い、簿記とは別に出荷市場における品目別の売上金額の記録をとるようになりました。このことによって各市場の出荷量や売上金額、品目ごとの平均単価の把握ができ、各市場における出荷量の調整をし、価格安定を図ってきました。

さらに去年からは作業内容の記入、作業労働時間の記録、施設や露地の占有率等を入力し、資材等の経費を照らし合わせて、1鉢あたりの原価計算をしています。1鉢のコストを把握し、今後はより一層のコストダウンを目指しつつ、1鉢1鉢大切に生産をしていきたいと思っています。

また、販売についても市場との企画生産出荷、小売店とのコラボ企画、ネット販売業者との提携など、市場のセリ販売に偏らないようにさまざまな生産出荷体制をとるよう心がけています。まだまだ比率が少ないので、市場のセリ販売の比率をより少なくし、生産鉢の価格安定を目指しています。

## 最後に

この10年、家族が積み上げてきた事に、少なからず上乘せできるような一生懸命がんばってきました。また昨年結婚をし、家族のためにより一層仕事に対する思いが強くなりました。

花業界だけでなく、どの業界においても要らないものや無駄なものは買わないこの時代に、さまざまな人の意見を参考にして自分の生産する植物を購入していただけるように努力して行きたいと思っています。

また、自分を常に客観視し、冷静さを保ちながらも自分のやっていることを信じて、一步一步前に進んでいきたいと思っています。